

2020年4月6日付 韓国環境部プレスリリース

京畿道と江原道の野生いのししから ASF ウイルス検出  
(野生いのしし 486-490 例目)

<http://www.me.go.kr/home/web/board/read.do?pagerOffset=0&maxPageItems=10&maxIndexPages=10&searchKey=&searchValue=&menuId=286&orgCd=&boardId=1363620&boardMasterId=1&boardCategoryId=&decorator=>

□環境部所属国立環境科学院(院長チャン・ユンソク)は、4月4日～5日に江原道(カンウォンド) 華川郡(ファチョングン) 華川邑(ファチョンウプ) および上西面(サンソミョン)、京畿道(キョンギド) 漣川郡(ヨンチョングン) 帽山面(ミサンミョン) で発見されたイノシシ死体5個体から ASF ウイルスが検出されたと4月6日明らかにした。

□国立環境科学院は4月6日、死体5個体から ASF ウイルスを検出したことを関係機関に通知した。これで華川郡(ファチョングン) 193件、漣川郡(ヨンチョングン) 182件、坡州市(パジュシ) 89件、鉄原郡(チョルウォングン) 23件、楊口郡(ヤンググン) 2件、高城郡(コソングン) 1件、合計490件のイノシシ ASF 陽性事例となった。

○野生イノシシ ASF 標準行動指針により試料採取後現場消毒と共に死体を処理した。

□国立環境科学院は「発生地域の捜索チーム人材を補強し、死体を集中的に捜索している。住民の方は、死体を発見した際、触ったり接近したりせず、速やかに申告してほしい」と呼び掛けた。

以上